

若手研究者コラムリレー

山崎 朱音 (やまざき あかね)



プロフィール

静岡大学教育学部 講師
日本体育学会の専門領域: 体育科教育学

東京都生まれ
2011年 静岡大学教育学部 助教
2014年 筑波大学大学院3年制博士課程
人間総合科学研究科コーチング専攻修了 博士(コーチング学)
2015年より現職
専門競技 ダンス

E-mail: yamazaki.akane@shizuoka.ac.jp



ダンス部の夏合宿にて

わたしの研究

ダンスの授業って、 ここが面白い！！

中学校保健体育の授業でダンス領域が必修になってから10年が経過しています。しかし、いまだに学校現場の多くの先生方から「ダンスの授業ではなにをどうやって教えたいの？」というご質問をいただきます。私はこのような先生方の疑問を少しでも解消し、先生方が自信をもってダンス授業に取り組めるよう、そして一人でも多くの子どもたちがダンスのおもしろさを感じることができるような授業の指導方法を、指導言語の視点から研究しています。

特に表現系ダンスやリズム系ダンスの学習は、子ども一人ひとりの表現が違う「ゴールフリー」であることが1番の魅力です。ですが、そこには「これだけは学ぼう」という「技能の中核」があります。私の研究では、ダンス指導の経験が豊富な指導者の指導言語となぜその言葉を発言したのかという発言の意図を分析し、その技能の中核を明らかにすることを試みています。そして子どもがこの技能の中核を習得してそれを駆使して動くことで、なりきったり自由にリズムにのれたりというダンスの特性に触れることができ、さらにイメージの多様化が促され、学びの深まりに繋がると考えます。子どもが学んだ技能を活かしながら発想を広げ、自分たちのオリジナルの表現をみつけていくそのプロセスを、子どもと一緒に教師が楽しめる授業、それがダンス授業のおもしろいところだと思っています。

「踊りたいな」、「なにかのまねっこしたいな」という気持ちや、音楽を聞くと自然とリズムに乗っている身体。子どものころは誰もが持っていたものだと思います。その心や身体を忘れさせない、取り戻させるようなダンス授業が全国の小・中・高校で実施されることを祈り、これからも研究を続けていきたいと思っています。

わたしの渾身の論文・書籍・記事

必読

山崎朱音(2014)創作ダンスの授業における指導言語の特徴とその背後にある知識の構造。筑波大学大学院博士論文。

(なんでも帳)

【第70回日本体育学会 若手研究者委員会の活動レポート】

先日行われた第70回学会大会@慶應義塾大学では、学会本部企画シンポジウム「テクノロジーの進化と体育・健康・スポーツ科学: eスポーツを題材に」において、若手研究者委員会を代表して秋吉遼子先生(東海大学)がシンポジストを、國部雅大先生(筑波大学)が司会を務められました。また、大会組織委員会シンポジウム「大学体育教員の使命を考える」においても、鈴木宏哉先生(順天堂大学)が若手会員が考える教養体育と大学教員養成について発表されました。また、シンポジウムの企画の段階から、委員会内では各専門領域から多角的な視点で2つのテーマについて議論を重ね、その内容をまとめて3名の先生方がシンポジウムにて発表くださいました。

今回はeスポーツと教養体育をテーマに委員会内では議論が行われましたが、このように各専門領域が集まって議論を行うことにより、体育・健康・スポーツ科学についてより深く考えることができたと思います。今回の学会大会では、新企画に領域横断セッションが設けられましたが、このように全ての領域の研究者と一緒に体育・健康・スポーツ科学について考えること、それがこれからの体育学会の姿なのではないかな、と感じました。

今後も、「若手」からの様々な発信を学会等の場で行っていきたいと思います。ぜひみなさまからの多くのご意見をお待ちしております。

○次回のコラムリレーは群馬県立女子大学の「一階千絵」さんを予定しています。

日本体育学会若手の会からのお知らせ

2018年8月に日本体育学会若手の会が発足しました！

→メーリングリスト登録フォーム:

<https://goo.gl/forms/zGMPdPa5fY3kcB5a2>

学会大会、研究会等の開催や報告者募集に関する案内、公募や助成金情報等に関する情報提供を配信予定です。皆様からも、メーリングリストで周知したい情報がありましたら、下記までご連絡ください。

taikugakkaiwakate@gmail.com (担当: 木村)

